

成高生の進路実現ストーリー

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
やるべきこと 注意事項	中学生から「成高生」になる		生活習慣に、家庭学習習慣を組み込む				将来の方向性を 視野に入れた科目選択①	学力向上！特に、5教科の弱点を補強する						
	成瀬・スタートキャンプ	《学習》 ①中学との違いを理解する ②授業に積極的に取り組む ③課題等は必ず提出する ④家庭学習の習慣を確立する ⑤家庭学習は計画を立てて行う 《将来に向けて》 ①自分の適性や将来に向けて考える ②情報収集力を身につける ③科目選択を意識する ④コミュニケーション力を強化する		大学1日体験入学	《学習》 ①生活リズム・学習習慣を崩さない ②(初めての)模試の意義を理解し、しっかり対策して受験する ③夏休みは計画的にメリハリをつけて、学習や部活動に取り組む ④課題テストや2学期中間考査の崩れを防ぐ ⑤夏休み以降は、家庭学習時間を固定化する 《将来に向けて》 ①オープンキャンパス等への参加 ② 科目選択は、生き方の選択である 。自己をしっかりみつめる				《学習》 ①基礎・基本の総復習。教科書の内容が全て理解できるようにする ②あくまでも授業中心の学習スタイルを貫く ③新年度を意識して家庭学習時間を徐々に延ばしていく ④家庭学習は計画を立てて行う ⑤1年間の反省をまとめ、来年度の長期目標を考える 《将来に向けて》 ①進みたいと考えている学問分野への理解を深める ②この1年を振り返り、反省と来年度の目標を立てる ③新聞やニュースにふれる機会を増やす ④コミュニケーション力を強化する					
1年間の流れ														
時期の特徴	中学4年生から高校1年生へ			高校生活に切り替える時期		オープンキャンパス参加と科目選択の検討		高校生活に慣れる時期(授業・部活動・家庭学習)			各教科のレベルアップを図る時期		遅れを取り戻す時期	
家庭学習時間の目安	平日2時間・休日3時間				120時間		平日2時間・休日3時間							
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
定期考査について	定期考査の延長に、進路実現があることを忘れないこと													
模試について	①模試に向けての対策、②最後まで諦めない受験姿勢、③終わったらすぐ模試の復習 この3つの行動がとても大切。やりっ放しにならないように！													
国語	・基本単語と用言の活用など文法事項の基礎を習得し、音読を繰り返す中で古文に慣れる(古文) ・訓読の基本を学ぶ(漢文) ・文章を正確に読み取るための練習をする(現代文)					・助動詞の意味と活用を中心に文法事項の定着をはかる(古文) ・文章から得た情報をもとに自分の考えを根拠とともに示し、意見を交換する(現代文) ・訓読の基本を定着させつつ、さまざまな句法を理解する(漢文)								
地歴	・世界史の基礎的な学習内容に関する知識の習得と、興味関心の涵養(世界史) ・自ら学ぶために、その学習の動機付け(目的意識)を持たせること(地理)					・歴史のタテヨコの繋がりと歴史的因果関係(背景・経緯・結果・影響・意義)を考える力を身につける(世界史・日本史) ・生活と学習を結びつけながら、興味の主体を様々な選択肢の中から探す(地理) ・基礎用語を頭に入れた上で、身近なところから議論を始める(地理・世界史)								
数学	・思考内容を媒体であるノートなどに示して、思考を進め、習慣化していく(視覚化) ・公式などを暗記させるだけではなく、原理もしっかりと定着させる ・基礎的な知識の習得、技能の習熟を図り、学びを深めていく					・生活空間での事象を、数学的に結び付けて、考察を進めていく ・他者の考え方を理解し、自分の考え方と比較しながら、理解を深めていく ・公式の意義を習得、定着させ、理論的なつながりを会得する								
理科	・小テストにより学習内容を身につける(化学基礎) ・定期テストの見直しをする(化学基礎) ・課題の提出期限を守る(化学基礎) 以上をしっかりとやり切る(化学基礎)					・アクティブラーニング型の授業から他者共同しながら徹底理解に努める(化学基礎) ・実験の予習や考察を通して、観察することの重要性を認識する(化学基礎) ・分からないことを生徒どうして質問し教えあう(化学基礎) ・実験を通し自ら興味関心を高め、計画的に学習する力をつける(化学基礎)								
体育	・基礎体力を身につけさせ、体力の向上と安全に留意して活動する能力と態度を育てる					・基礎技術と体力の向上を図る。球技や持久走を通じて、他者と協力・協働する意識を高める ・アジリティの向上など、身体の自分の操り方を理解させる ・様々な練習法を学び、技能・知識を深める ・体育委員の活動を通じて責任ある行動を心がけさせ、責任感を身につけさせる								
保健	・健康についての知識を身につけ、自分に置き換え、更に「聴く力」を育てる ・体力テストや体育祭を通じて、自らの体力や能力を知り、それを活かそうとする能力と態度を育てる					・健康に関する知識を身につけ、自分に置き換えると同時に問題を発見し解決できる能力を 育て、その内容を活用しながら規則正しい生活習慣の重要性を理解する								
音楽	・音楽を構成する三要素について理解する。 ・基本的な発声法を体感し、理解する。 ・音楽の三要素のうち、特に「リズム」に注目する。ポディーパーカッションを通じて「リズム感」の基本的な考え方を理解しつつ、よい表現を目指す。 ・歌唱およびリズムに関する実技テストを行う					・音楽の三要素のうち、「ハーモニー」の基本的な考え方や、美しい響きのあり方を理解する ・歌唱アンサンブル(2声～4声)により、相互に響きを聴き合い、自分で確かめながら歌う ・器楽として、ギターの基礎的奏法を学ぶ。その上で、メロディー演奏およびそのアンサンブルを実践し、美しい響かせ方やバランス等、「よい表現」とは何かを学ぶ								
英語	・ペア、グループ活動に慣れる ・音読することを身につける ・外国人講師によるQ&Aに慣れる ・定型表現を習得する ・文法の基礎を身につける					・繰り返し練習で表現を定着させる ・ペアワークで問題解決法を学ぶ ・英語を使用したペア、グループ活動を行う ・why!に対する自分の考えを書いてみる								
情報	・教科「情報」とは何か、概略をつかむ ・主体的協働的な学びとは何かを考え、実践する ・学習の仕方、情報活用手段を学ぶ					・問題解決を通して多角的視野と、主体的に取り組む姿勢を育む ・コミュニケーションを通して言語活動の必要性を学ぶ ・情報活用能力を習得し、適切な情報共有が出来るようになる ・他者と協働し、未知の問題を解決する								
探究	・他者と協働的に問題解決を図る力を身につける ・個人で探究活動の過程を一巡し、活動の全体像を理解するとともに、研究の計画立案力を身につける					・批判的思考力や課題発見力を身につける ・基本的な調査、研究手法を身につける ・効果的なプレゼンテーションの手法を身につける ・自己理解を深め、関心領域を発見する ・大学・企業・NPOなど外部専門機関と連携し、グループ単位で課題解決の方法を提案する								

成高生の進路実現ストーリー

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4～6月										
やるべきこと 注意事項	学習内容の増加や深化に合わせ、家庭学習を改善しながら取り組む								3年0学期 受験勉強を本気でスタートさせる 5教科の基礎力の定着を図る				勝負の1年⇒が始まる										
	①わからない箇所はそのままにしない ②家庭学習は計画を立てて行う ③授業への積極的参加(受け身にならない) ④定期考査全科目を大切に学習する ⑤文武両道を実践する		大学1日体験入学	学部学科ガイダンス ①生活リズム・学習習慣を崩さない ②夏休みの学習計画の作成と実行 ③得意科目の強化、不得意科目の補強 ④5教科の基礎力(教科書)の徹底 ⑤文系の地歴、理系の理科の重要性を意識し勉強時間を確保 ⑥オープンキャンパス等への参加 ⑦学校行事(樺祭、修学旅行等)で学習のペースを乱さない ⑧受験科目の決定し科目選択に備える		受験を見据えた科目選択②	修学旅行	①修学旅行後、スイッチを切り替え受験モードに ②3月末までに2年間の総復習と苦手科目の克服、家庭学習の習慣を確立する 特に5教科の基礎力(教科書)を完成する ③無理な家庭学習計画は立てず、着実に実行する癖をつける ④1年間の反省をまとめ、「勝負の年」の年間計画を立てる ⑤共通テストに挑戦する															
	クラス内で、勉強優先の雰囲気作りをする								修学旅行後、 「受験生」になる														
	英語外部検定を積極的に受検する																						
1年間の流れ																							
時期の特徴	文武両道を実践し高校生活を充実させる時期					志望大学・学部・学科を考える時期		受験生に変わる時期(学習の中心は授業)			1年後(受験)を意識する時期		入試基礎力の養成に入る時期	入試基礎力を養成する時期									
家庭学習時間の目安	平日3時間・休日4時間					200時間		平日3時間・休日4時間						週25時間以上									
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4～6月										
定期考査について	定期考査の延長に、進路実現があることを忘れないこと																						
模試について	①模試に向けての対策、②最後まで諦めない受験姿勢、③終わったらすぐ模試の復習 この3つの行動がとても大切。やりっ放しにならないように！																						
	全員受験(校内)						記述7水					記述1月				記述19水							
国語	・助詞・敬語の意味と用法を中心に理解を深めつつ、疑問点を自ら見つけ出す(古文) ・漢詩の読解などを通して、漢字の意味や中国文化史への興味を高め、理解を深める(漢文) ・読解の中で疑問点を自ら見つけ、主体的な学びにより小説や評論文を論理的に把握する(現代文)					・識別について理解し、適切に読解を行うための方法を身につける(古文) ・語彙と句法についての知識を増やし、自ら内容を読み解く力をつける(漢文) ・文章の内容と自分の意見、他者の意見を比較し、疑問点を共有しつつ深い理解へとつなげる(現代文)					・それまでに培った文法力・単語力をもとにした正確な読解を確認し、共有する(古典) ・文章を読み解き、ポイントを整理して提示し他者と共有する。長文読解の練習と思考力を高めるための小論文演習を併せてごこなう(現代文)												
地歴	・日本の原始・古代について、基礎的知識を習得し、興味、関心を持つ(日本史) ・話し合いの質をどのように高めるか?(地理) ・卒業後の進路を視野に入れて学ぶ(世界史)					・日本の歴史について、基礎的な知識を習得し、歴史の流れ・因果関係を理解すると同時に自己の理解を他者に伝えることができる(日本史)					自分の進路にあった学びを深める(世界史) 日本の近世・近代について、受験にも対応し得る知識を習得する(日本史) 自己の進路決定(将来決定)において、時代の転換点において先達はどう生き、どう選択したか、考えを巡らせる												
数学	・数学的に捉えられる視点を、既知の知識と結び付け、論理的に自分の解決過程を示し、考え方を広げたり深めたりしながら、問題を解決していく					・1つ1つの問題の核となっている部分を見極める能力を養う(その過程として、高1～高2夏での取り組みが重要となる。) ・自分の問題解決方法を振り返り、臨機応変に微調整しながら、使い分けていく					これまで学習した基本的な知識が、いかに整理整頓されているかが、高度な思考へと飛躍できるかにかかっている 今までに得た知識を総動員させ、高度な問題解決に向け試行錯誤し、ひらめき現象を体験しながら、学習を進める												
理科	・実験や授業で基礎力を養成する(物理基礎) ・問題演習により公式を使って答えを導く力を養う(物理基礎) ・生物の細胞やからだの構造を学ぶ(生物基礎) ・生命活動を維持するために各構造間でどのような連携が行われているか学ぶ(生物基					・熱や波・電気の基本概念を身につける(物理基礎) ・問題演習によって答えを導くパターンを身につける(物理基礎) ・生物のからだの仕組みや生態系における生物どうしの関わりの意味を学ぶ(生物基礎)					問題演習によって入試に対応できる実践力を養う(物理) ・「1日1題」の課題で基礎力を鍛える(化学) 生物基礎の知識を発展させ新たに学ぶ項目を統合し生物学の知識を完成させる(生物) 身につけた知識を活用し入試対策として問題演習を行う(理科全般)												
体育	・体力の向上と安全に留意して活動する能力と態度を育てる ・体育委員としての活動からリーダーシップと責任感を育てる ・協働 協力しながら活動する意識を高める					・主体的に物事を考え、行動する能力を身につける ・運動(各種)の基礎・基本能力を身につけさせる ・運動を通じて、主体的に物事を考え、行動させる					・運動(各種)の基本・見本を応用して、ゲームに活かせる ・他の生徒に対しての指導力をつける ・継続的な運動を定着させる ・2年女子 ダンス授業を通じてリーダーシップを発揮し、班で創作・発表を行う												
保健	・「伝える力」を育てる ・「疑問を持つ力」を育てる					・「なぜ」「どうして」を生活の中で考え探究する					・健康とスポーツとの関係性について、より理解を深める												
音楽	・身体への声の響かせ方を学び、曲種に応じた発声法を見つられるようにする ・ギター伴奏による歌唱等、異種の組み合わせによるアンサンブルのありかたについて学ぶ ・ギターで10種類程度のコードネームを連続して演奏する ・音楽と社会のかかわりについて、音楽鑑賞を通して考える					・各音楽作品について構成要素等に注目し、より多くの「よい表現」の可能性を自ら探る ・3～8声部の重唱・合唱により、美しい響き(縦のライン)とメロディ・ラインの音楽的な表現(横のライン)とが結びついたより高度な演奏技術を目指す ・キーボードで簡単なメロディおよび簡単なコードネームが演奏できるようにする ・初歩的な作曲(創作)および編曲に挑戦する					様々な音楽や演奏を聴き、根拠をもって批評できるようにする ・声・ギター・キーボードなど、複数楽器と声とのアンサンブルを行い、どのように音楽的主張をまとめ、表現するかについて考える 指揮者の役割について、体験しながら考える。また、演奏者と指揮者との関係性についても体験しながら理解する 音楽史に沿って様々な時代・ジャンルの音楽に触れながら、表現の歴史的/社会的必然性について考える												
英語	・ペア、グループ活動を通して英語で自分を表現する ・英文法のルールを問題演習を通じて定着させる					・文のつながりを考えながら読む ・why!に対する自分の意見を表現する					・長文や、英作文を通して文章の展開を理解する ・読んだこと聞いたことについて英語で要約する ・ペアやグループ活動で自分の意見を英語で発表する ・文章を論理的に読みパラグラフ単位で理解する												
家庭	・授業中の使い方、提出物の大切さを理解させる ・自分の考えを発表できる力をつける					・家族について・将来の生活について考えさせる。 ・環境について学ばせ、実践していく力を身に付けさせる					・プレゼンテーション能力を身に付けさせる ・問題解決能力を身に付ける ・高齢者福祉施設実習などを通してコミュニケーション能力を身に付ける ・高齢者の特徴を理解する ・健康な生活をおくるためには、何が大切か考えさせる。 ・超高齢社会を生きていくために、必要な生活力を考えさせる ・五大栄養素を理解し、栄養のバランスのとれた食生活をおくることの大切さを理解する												
探究	・自己の関心領域に関する社会的意義や学術的意義の認められる課題を発見する ・他者と連携を図りながら課題解決を行い、その成果を論文にまとめる ・発表後、他社からの助言をもとに再度課題を設定し探究活動を行う																						

